

「できない」を『できる』に変える
石川県を動かした4年

石川県知事 はせ浩が
県民とともに進めた **主な成果** (実績抜粋)

能登半島地震からの
生活再建支援を強化

県1,000万円超/世帯の支援
約1,000億円の復旧・
復興財源を確保

創造的復興で
「新しい能登」を推進

トキ放鳥、
祭り支援拡充、
災害に強い地域づくり

中小企業と雇用を
守る成長支援

700億円ファンドで
280件支援、
伴走型支援を強化

若者の学びを応援

県立夜間中学校開校
不登校児童・生徒の対策強化、
インクルーシブ教育充実

文化・芸術・スポーツ
で石川を元気に

金沢城二の丸御殿着工、
文化振興基金
200億円に拡充

子育てに優しい
環境づくり

第1子からプレミアム
パスポート、子どもの
医療費を就学前まで無料化

介護・福祉サービス
の底上げ

人材確保と賃上げ支援
社会福祉会館移転整備

防災・減災への
投資を拡充

住宅耐震支援は全国トップ、
新防災ヘリ導入、
防災庁分局を国に要望

交流基盤の強化

国道8号・415号・加賀海浜
産業道路・のと里山海道など
広域道路を加速整備

まちの賑わいと
交流を創出

金沢都ホテル跡地整備
Zepp金沢誘致
白山の魅力向上発信強化



まだまだ
あります!

詳細は
ホームページにて
ぜひご覧ください



この4年間、能登半島地震や奥能登豪雨で被害を受けたインフラの復旧や、失われた家や仕事を取り戻すために、被災者お一人お一人に寄り添い、国とのパイプを最大限に生かして復旧を進めてきました。また、「石川県成長戦略」を策定し、**県全体の成長**にも力を注いできました。

これからの4年間は「復興と挑戦」。能登の創造的復興を必ず進めます。ものづくり産業や農林水産業、観光産業など、石川の成長エンジンをさらに強くし、防災、介護、福祉、医療、教育など、**県民の暮らしの安全・安心を守ります**。

県民の皆さんの声を丁寧にお聞きし、県民の皆さんとともに、**幸福度日本一の実現を目指し、石川県のさらなる成長に挑んでいきます**。

石川県知事 **はせ浩**



県民との対話を重ねてきました!

はせの**声プロジェクト** ^{プラス} **実施中!**

声を聴くだけじゃない。行動で応える、県政へ。

県民の皆さんと語り合うタウンミーティングを県内各地で行っています。どなたでもお気軽にご参加いただけます。暮らしのこと、地域のこと、どんな小さな声でも聞かせてください。 **LINE友だち募集中!**

参加費:無料 事前申込:不要 ※お席に限りがあります

日程や会場の詳細は、各種SNSまたは公式LINEでご案内



高市総理とタッグを組んで
石川を前へ!

スピード感をもって、
県独自の対策を、
県民目線で即断・即決!



裏面へ 馳知事の話が
漫画で読める!



ホームページでも
ご覧ください

重点政策 「できない」を 「できる」に変える



足元の物価高から県民の暮らしを守る

- 水道料金の基本料金の無償化(R8年2月~3月分) ● 省エネ家電購入支援(R8年3月スタート)
- ➕ さらに2ヶ月間延長(R8年4月~5月分)
- 県立高校など教育用タブレット、保護者負担ゼロへ。県が全額負担



能登半島地震・奥能登豪雨からの復旧・復興

復旧前進

- インフラ復旧、住まい、なりわい再建を市町とともに加速
- 復興公営住宅家賃を県が全額負担(入居後3年間)
- 能登事業者支援センターの強化(金融の専門家配置)
- 奥能登の県立高校は1校も減らさず
- 和倉温泉の早期復興
- 県独自の旅行応援(R8年3月スタート)
- のとじま水族館リニューアル



創造的復興

- 本州初のトキの放鳥をR8年5月31日に羽咋で実現、9月頃に能登で2回目の放鳥実施
- いしかわサテライトキャンパス(受入学生1,000名目標)
- 輪島塗の再興
- 奥能登国際芸術祭を開催
- 能登駅伝の復活
- 「市町事務移譲協議会」の設置(特に被災市町)



石川県成長戦略

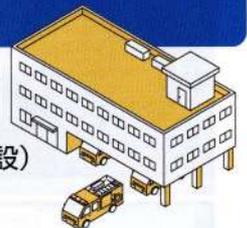
子育て・医療・福祉・教育

- 子どもの医療費助成制度を就学前から小6まで拡大(市町の子育て・教育施策を充実)
- 障害者医療費助成制度の拡充(精神障害者手帳2級所持者)
- ひとり親家庭の医療費助成制度の窓口無料化
- 補聴器購入費助成制度の創設
- 「孫守り育休制度」の導入
- 奥能登新病院建設構想
- 社会福祉会館移転整備(R11年完成)
- 元気な高齢者の居場所づくり
- 能美特別支援学校(R11年4月開校)



防災・減災

- 消防学校の移転整備(防災センター併設)
- 小松空港周辺への防災庁分局設置



産業

- 炭素繊維やDX・GX分野など企業のチャレンジ支援
- 高等教育機関と連携した半導体人材の育成
- 最低賃金に対応した事業者支援
- カスタマーハラスメント対策(条例の制定)
- 県産農産物の国内・海外への販路開拓



「文化立県・石川」にさらなる磨き

- 金沢城二の丸御殿の復元
- 加賀料理の担い手育成・石川県から食の人間国宝を
- 尊経閣文庫の誘致

能登・金沢・加賀の交流基盤整備

- のと里山海道(徳田大津IC~のと里山空港IC)の国による4車線化
- 西部緑地公園再整備
- 金沢都ホテル跡地の整備
- 兼六園県有地化構想
- 兼六駐車場にバスターミナル機能
- 小松空港ターミナルビル建替(行政庁舎併設)
- 加賀海浜産業道路の整備促進
- 国道360号(小松~鳥越間)の整備着手



2024年1月1日 16時10分
能登半島地震発災

35分後には自衛隊に
災害派遣要請

県民の命が最優先
できることは何でもやる

林官房長官(当時)

発災時、東京にいた馳知事は、
旧知の間柄である林官房長官(当時)の
携帯に直電し、速やかに官邸へ移動

自衛隊経由で提供される
官邸の最新情報をもとに
18時30分にはオンラインで
「第1回災害対策本部員会議」を開催
結果的に東京にいたことで、
官邸との密な連携による迅速な
初動対応を行うことができた

自衛隊ヘリにて石川県へ移動、
同日23時22分に石川県庁に到着

翌2日、朝7時すぎ
消防防災ヘリで上空から
被災地の状況を確認

地震で道路が寸断され、
電気・水道ガスは止まり、
能登は陸の孤島と化していた

馳知事は
「能登を救うための
非常事態」を宣言

県庁のすべての部局に
災害対応に当たるよう指示

人があふれ、トイレも
不十分な避難所では感染症も
蔓延し、ビニールハウスや
車中泊も続出した

そこで、災害関連死を減らすため
健康状態をチェックし、
被災地外の二次避難所へつなぐ
「1.5次避難所」を検討するも…

前例がありません、
後々に県の責任を
問われるリスクが！

責任は私が取る
高齢者や要介護者の
命を守るためだ

「1.5次避難所」
日本初開設

いしかわ総合スポーツセンター(金沢市)



2024年9月
奥能登豪雨災害
さらなる試練

馳知事は「公費解体加速化プラン」を策定し、毎週の工程会議で進捗を徹底管理

想定を超える2倍近くの申請にも関わらず、公費解体は驚異的なスピードで進み、2025年12月末、一部を除き被災建物の公費解体が完了

現実とかけ離れている SNS 投稿や報道が続く中、事実を伝え始める記事が出てきた

「能登のデマや政治利用、本当に腹立たしい」。「偽被災者」と中傷された地元住民は、「もう一つの災害」に襲われていた

※引用元:HUFFPOST 2025.08.27
https://www.huffingtonpost.jp/entry/story_jp_6892d4b9e4b0d3424bc43bed

「能登は見捨てられた」説に現地から猛反論…被災地で起きている「劇的な変化」と、あえて「復旧しない場所」がある納得の理由

※引用元:現代ビジネス 2025.12.03
<https://gendai.media/articles/-/160677>



※当初見込みの約2万3千棟から、最終的には約4万5千棟へと倍増した

マスコミの報道を問題視する指摘も

東京を中心とするメディアでは、創造的復興の取り組みもほとんど伝えていない



西田教授(リハック出演)

すでに能登復旧の先を考えた動きは始まっている

スタートアップ企業の誘致

関係人口の拡大

(いしかわサテライトキャンパス)

道路網の強靱化「のと里山海道」

伝統工芸と祭りの復活 他多数



2025年12月7日
高市総理の被災地視察



高市総理

現場で積み重ねられた判断と経験は、次の備えへとつながっていく
高市総理が進める「防災庁」の設置(令和8年度目標は、今回の能登での馳知事の経験や教訓が色濃く反映されている)



先日は被災地視察ありがとうございました

頂いた要望書、全部対応しといたからね



前例のない現場で、迅速・的確な判断を積み重ねてきたすべては県民のために、「できない」を『できる』に変える県政を



はせ浩 公式LINEから読める!

裸一貫たたき上げ!「少年はせひろし物語」